平成 29 年 10 月 11 日

調　査・研　修　報　告　書（会派個人用）

会派名：　きずな　　**報告者：**林　　高正

実施場所：高知県いの町　土佐の森救援隊	実施日：平成 29 年 10 月 5 日（木）

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状　など）

自伐型林業を研究・実践されている「土佐の森救援隊」を実際に訪れ、考え方を聞き、施業を見させて頂くことが最大の目的でした。

■参考とすべき事項

本当に自伐型林業で生活できるのだろうかという疑問を抱えての視察研修だったのですが、3 軒の林家の山を実際に見させて頂き、意見交換した結果、山の木の状態にもよりますが、年収は 500 万円から 700 万円ということでした。諸経費と言っても、機械は、小型のユンボに小型の林内作業車、2 トンダンプ程度ですから、燃料代と消耗品代程度だそうです。機械の初期投資も、中古で揃えた人は、総額 500 万程度だそうです。基本的に個人での作業ですから機械類も長持ちしますので、修繕費もそれほどかからないとのことでした。

もう少し具体的に書きますと、我々の周りの山で行われている皆伐とは全く異なる施業スタイルが自伐型林業です。つまり、自分で 2.5m 幅程度の作業道を作りながら間伐を実施していくのです。そして、重い間伐ではなく、10 年に 1 回程度の間伐を 10 回実施すると考えて下さい。つまり、長伐期施業することで優良木（大径木）に仕立てていくのです。ですから、30ha～50ha 程度の森林を所有するか、山主から借りられれば、自伐型林業は可能ということになります。50 年生の木を皆伐すれば終わりますが、循環する自伐型林業では、細く長く一定の収入を得ることができるのです。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

皆さんも実際に土佐の森救援隊に行かれて現場を見られれば納得されると思いますが、庄原市内でもどこでも自伐型林業は可能です。いの町では 10 名の地域おこし協力隊員が山に入って活動していましたが、下手な林業知識が無い方が指導もやり易いし、成果も早くでるとおっしゃっていました。ですから、庄原市の地場産業育成と人口減対策として、地域おこし協力隊員を募集し、林業に特化した I ターン者を募集する価値は十分にあると考えます。

そして、土佐の森救援隊から指導者においでいただき、地元の興味ある人たちも巻き込んで、現場指導を受けながら人材育成していけばと考えます。できたら、庄原市の市有林で作業者のグループ化ができれば、自伐型林業のモデルとなることも可能でしょう。何としても、実際に動くことが一番です。土佐の森救援隊の中嶋理事長も話されていましたが、「今の高性能林業機械による施業は、B 材のみを伐りだすことが目的になっているが、我々の自伐型林業は、A 材を作り出す施業スタイル」だそうです。山に優しい、木に優しい施業スタイルが自伐型林業と言えるのではないでしょうか。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

2017年　10月　11日

調　査・研　修　報　告　書（会派個人用）

会派名：きずな　　**報告者**：　徳永泰臣

実施場所：高知県伊野町　土佐の森救援隊	実施日：平成２９年１０月５日（木）

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状　など）

本市森林の活用の為、土佐の森救援隊の自伐型林業への取り組みについて視察研修した。

■参考とすべき事項

○　日本の林業は大きく施業委託型と自伐型に分かれる。
委託型は森林組合などが施業を請負い、自伐型は所有者が自ら施業する。現状は施業委託型が９割以上を占める。日本林業の特徴と言えるが、施業の大規模化や作業効率が重視されるあまり、山林経営がないがしろにされ、問題点も多い。

○　委託型は大型の高性能林業機械を導入し、ガンガン伐採してはげ山にする。そこを再造林している間に別の山に移って皆伐するという事を繰り返している。作業林道も大きくなり、土砂災害や環境破壊を誘発している。

○　自伐型は、これら委託型林業の問題点を解決する。
一つの山から毎年収入を得ていくため、皆伐はご法度で、間伐を繰り返し、高く売れる高樹齢の木を増やす林業におのずと向かう。大型機械を使わない為、作業林道が小さく、環境に優しい。施業の機械は大きくないが、初期投資や作業コストは少なく、今の低い材価でも十分儲かる。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

自伐型林業は、一人あたりは小規模だが、現行林業の大問題点を解決し、大きなポテンシャルがあり、他産業をサポートし、獣害対策の根本療法となり、大きな環境保全活動となり、土砂災害防止にも貢献するという、中山間地域にとって万能型で、どの地域でも展開可能である。

今後、多様な材を生産する自伐型林業者が増え、その材を使い尽くす林業産業があってこそ真の地方創生であると思う。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

2017年　10月11日

調　査・研　修　報　告　書（会派個人用）

会派名：　きずな　　報告者：　五島　誠

実施場所：高知県いの町　土佐の森救援隊	実施日：2017年10月5日（木）

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状　など）

・土佐の森救援隊の自伐型林業の取り組みについて学ぶ

■参考とすべき事項

・航空写真から見ると山の状態がよく確認できる。確かに皆伐や縦列間伐を行っているところは環境保全や災害時の事を考えると問題があると感じた。間伐のやり方で大きく地域に影響していく。
・経営の観点から見ても大型機械の導入や集約化は補助金頼みの側面が大きく、それよりも自伐型の方が施業する方や所有する方にとって実入りが多い事がわかった。
・一つの事例として引きこもりだった若者が年収７００万円になった事例があるが、やり方によっては庄原市においても似たようなことが出来ると思う。また、４０年から５０年を伐期とする考えを改め、１００年続く山の経営が必要である。その際しっかりと良い材を作っていく、山の環境を守っていく観点を持ち、目先の利益にとらわれず森林経営をしていかなければならない。
・木の駅構想は入口としては有用に感じるが、今後若い林業家を育てていく視点を持ち、自伐型林業で食べていけるようにしなければ発展性はない。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

・自伐型林業について市内での理解を深めていくため、講師をお呼びしての啓発活動や、市内での好事例を作り紹介していく事が必要である。まずは市が常識にとらわれず考え方を変えていかなければならない。
・高知県では自伐型にも手立てを行っていた。広島県にも自伐型への手立てを提案するべきである。将来的な補助金からの脱却を図ることは当然に必要であるが、そのためにも道筋を立てていける設計図が必要であり、その戦力の一つとして自伐型林業を推し進めるべきである。
・経営計画を立てていくためにも境界の確定が必要であり、先般ご提案のあったレーザー測量は是非とも行っていただきたい。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成29年10月6日

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：きずな　　報告者：桂藤和夫

実施場所：「自伐型林業（NPO法人土佐の森救援隊等）」	実施日：平成29年10月4日(水)～6日(金)

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状　など）

8割以上が森林である本市における今後の森林経営、作業従事者の高齢化、担い手不足等により森林がなおざりになっている現状を踏まえ、今後の森林経営をどのようにしていけばいいのか？という課題についての一助になれば…という思いで調査・研修に行ってきました。

○10/5(木) 9:00～12:00 高知県小規模林業推進協議会会長 中嶋健造氏の講演（高知県立高知青少年の家）

13:00～16:00 仁淀川町他施業現場視察（3カ所）

■参考とすべき事項

○現行林業では大型機械により皆伐、過間伐されており、経営・施業を請負事業体（主として森林組合）にほぼ全面委託しているのに対し、自伐型は経営・施業を自らor山守と共同で実施することにより、多世代型の森林経営が可能となること。

○自伐型では施業に必要な面積は、主業にする場合は30～50ha、副業なら10～30haと少ない面積で自立可能で、機械についても約600万円以下と低コストで、永続的森林経営、環境保全型・再生型林業につながり、兼業や家族経営も出来ること。

○作業道も小規模なもの（2～2.5m）でよく、壊れない作業道は予防砂防・治山にもなり、林地が減らない、風が入らないことにより補助金も、現行林業では高額な補助金が必要だが、自伐型の場合は作業道敷設が終了すれば、それ以降は補助金ゼロでもやっていけること。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか　など）

○本市は広大な面積の森林を有し、農業や建設業に光が当たりにくい。今後、森林吸収源対策に早急に取り組み、様々な課題を有していると思うが、「自伐型林業」を推進していくことにより、新規雇用や空き家バンク制度も活用して、定住促進につなげていけばいいと思う。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。